

養老線の車両更新事業について ～ 老朽化した車両を令和10年度から順次更新 ～

一般社団法人養老線管理機構では、老朽化が著しい旧近鉄車両の安全性向上と利用者サービス向上を図るため、車両更新事業を進めております。このたび、車両製造業者選定プロポーザルを経て、更新事業の概要がまとまりましたのでお知らせいたします。

1 背景・目的

現在、養老線で運行している旧近鉄車両は、製造から60年以上が経過することから、車体や台枠の腐食等、老朽化が深刻になっています。そのため故障リスクが高く、部品調達が困難になっており、減便や運休などのリスクが高まっています。

そこで、安全で安定した鉄道輸送サービスを継続的に提供するとともに、省電力化による運行コストや維持管理費用の縮減等を図るため、旧近鉄車両の更新について検討を進めてまいりました。

この度、製造事業者を選定し、車両の仕様、価格、スケジュールの具体案を示すことができるようになりましたので、旧近鉄車両について、令和10年度から新型車両に順次更新する方向で関係市町と調整を進めてまいります。

2 事業概要

(1) 導入スケジュール案

令和10年度から6年間をかけて、年1編成ずつ6編成15両を更新します。

(令和10～12年度：各年度で3両を更新、令和13～15年度：各年度で2両を更新)

(2) 製造事業者

プロポーザル方式で車両製造事業者5社を指名したところ、1社から提案があり、養老線管理機構が設置した評価委員会で審査・評価を行い、次の事業者を選定

株式会社総合車両製作所

(3) 事業費

約49億円

3 新型車両の特徴と導入効果

(1) 車両の特徴

- | | |
|--------|---------------------------|
| ① 車体 | ステンレス製により錆に強く、車体強度と耐久性を向上 |
| ② 制御方式 | 抵抗制御から最新のインバータ制御に変更 |
| ③ 軽量化 | 車体軽量化により消費電力を削減 |
| ④ デザイン | 沿線7市町の特徴を取り込んだ車両デザインを予定 |

(2) 主な導入効果

- ① 安全性・安定性の大幅向上
 - ・ 車両の軽量化及び最新機器により、安全性を確保
 - ・ 故障リスクが大幅に減少し、運行の定時性・安定性が向上
 - ・ 車内防犯カメラ設置により乗客の安全・安心を確保
- ② 利用者の利便性・快適性向上
 - ・ 全自動空調システムにより年間を通じて快適な車内環境を実現
 - ・ LCD 案内表示システムや自動放送装置により利用者への案内を充実
 - ・ ユニバーサルデザインにより、すべての利用者にやさしい車両を実現
- ③ 環境負荷の軽減
 - ・ 車両の軽量化及びインバータ制御により消費電力を約50%削減（従来車両比）
- ④ 地域活性化への貢献
 - ・ 沿線7市町の魅力を表現した車両デザインにより、地域の魅力を県内外にPR
 - ・ 新型車両を活用したイベント開催等により、養老線への関心を向上
 - ・ 最新車両導入により、より一層の養老線の存続性・持続性をアピール

4 今後の予定

- | | |
|------------|-----------|
| ・ 令和7年9月 | 詳細仕様検討 |
| ・ 令和10年度初頭 | 契約締結・製造開始 |
| ・ 令和11年2月 | 第1編成導入予定 |

5 【参考】養老線と一般社団法人養老線管理機構の概要

(1) 養老線について

養老線は西美濃・北伊勢地域を南北に縦断する路線延長57.5kmの地域鉄道で、岐阜県の大垣市、海津市、養老町、神戸町、揖斐川町、池田町と三重県の桑名市を結んでいます。沿線人口は40万人を超え、20を超える高等学校等の生徒が利用しており、地域住民の通学・通勤の重要な交通手段として、地域経済活動を支える基盤的な役割を担っています。

(2) 一般社団法人養老線管理機構について

沿線7市町が養老線存続のため平成29年に設立した一般社団法人で、第3種鉄道事業者として養老線の鉄道施設や車両を所有・維持管理しています。第2種鉄道事業者の養老鉄道株式会社と協力して運営しています。

(3) 路線データ

路線延長	57.5km（桑名駅～大垣駅間43.0km、大垣駅～揖斐駅間14.5km）
接続路線	大垣駅：東海道本線ほか（JR東海）、樽見線（樽見鉄道） 桑名駅：関西本線（JR東海）、名古屋線（近鉄）、北勢線（三岐鉄道）
事業形態	上下分離方式 運行：養老鉄道(株)、施設保有：一般社団法人養老線管理機構
保有車両	31両（旧近鉄系16両、旧東急系15両） ※ 車齢58～62年（令和7年7月現在）
輸送人員	年間583万人（令和6年度）